

元気アップわかやま食育プラン

第3次和歌山市食育推進計画

(令和5年度～令和9年度)

概要版

1 計画の策定にあたって

計画策定の趣旨

食を取り巻く情勢の変化

- 社会状況等の変化により、ライフスタイルや価値観が多様化し、孤食や欠食、食習慣の乱れ、伝統的な食文化の喪失といった多くの課題を抱えている。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により「新しい生活様式」へ変化し、食を通じたコミュニケーション機会が減少する一方、在宅時間の増加による家族での食事の機会が増加するなど、食を見つめ直す機会が増えている。

本市の現状

- 朝食を欠食する子供や若い世代の割合が上昇
- 学校給食における地場産物を使用する割合が低下
- バランスの良い食事をとる割合が低下
- 食育に関心のある割合が上昇
- 農林水産業を体験したことのある割合が低下
- 食文化や伝統料理を継承し伝えている割合が低下
- 食品の安全性を判断する割合が低下
(若い世代は上昇)

現状を踏まえ課題を発見し、前計画の取組や成果目標を見直すとともに、SDGsの観点を加え策定

計画の位置付け

食育基本法第18条に基づく市町村食育推進計画として本市の食育に関する基本的な事項を定める。

計画策定の体制

市民をはじめ、有識者等で構成する「和歌山市食育推進会議(9名)」、産官学包括連携協定による和歌山大学、わかやま農業協同組合からの意見を踏まえ策定

計画期間

令和5年度～令和9年度(5年間)

2 計画の基本方針

基本理念

市民が食を楽しみ、食の大切さや感謝の心を深め、自然環境に恵まれた和歌山の食の特性を生かし、心身ともに健康で過ごせるまちづくりを目指します。

基本目標

- ①早寝、早起き、朝ごはんをすすみましょう。
- ②バランスのとれた食事を楽しくしましょう。
- ③食を大切にし、感謝の心を深めましょう。
- ④地元で生産される食材を学び、食事に取り入れましょう。
- ⑤郷土料理や伝統的な食文化を伝えましょう。



重点項目

これまでの取組による成果と、SDGsの考え方を踏まえ、3つの重点項目を柱に取組を推進する。

持続可能な食を支える食育の推進

健全な食生活の基盤として、持続可能な環境が不可欠。食育の取組を進めていく中で、食を支える環境の持続に資する取組を推進する。

生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

ライフステージやライフスタイル、多様な暮らしに対応し、切れ目のない、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進する。

「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

「新しい生活様式」へ対応するため、デジタル技術を上手に活用し、「新たな日常」の中で高まる食への関心を生かした食育を推進する。

環境の環(わ)

食と環境の調和

和食文化の和(わ)

人の輪(わ)

日本の伝統的な和食文化の保護・継承

農林水産業や農山漁村を支える
多様な主体との繋がり深化

3 現状と課題を踏まえた基本的施策の展開

1 家庭における食育の推進

《現状》

朝食を欠食する子供や若い世代の割合が上昇

《課題》

- 子供に対し、朝食を食べることの重要性、早寝・早起き等の生活習慣の重要性についての学びを深める。
- 食を通じたコミュニケーションを目的とした家庭や地域での共食の取組を促進し、食への意識向上を図る。

《施策》

- ①「早寝、早起き、朝ごはん」の普及啓発
- ②望ましい食習慣の知識の普及啓発
- ③妊産婦や乳幼児に対する栄養指導
- ④子供・若者の育成支援における共食等の食育推進
- ⑤在宅時間を活用した食育の推進

主な目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
朝食を欠食する子供(小学6年生)の割合	6.6%	0%
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	週9.4回	週11回以上



2 学校・保育所等における食育の推進

《現状》

学校給食における地場産物を使用する割合が低下

《課題》

地産地消の給食メニューを増やし、地域食材の理解や食への感謝の気持ちを深める。

《施策》

学校・幼稚園

- ①学習による食育の推進
- ②体験を通じた食育の推進
- ③給食における食育の推進

保育所・認定こども園

- ①学習による食育の推進
- ②体験を通じた食育の推進
- ③保護者への食育の推進
- ④給食における食育の推進
- ⑤保育所・認定こども園職員による食育活動の展開

主な目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
学校給食における地場産物(和歌山市産)を使用する割合(金額ベース)	11.5%	11.5%
学校給食における有機食材を使用したことのある学校数	0校	68校



3 地域における食育の推進

《現状》

バランスの良い食事をとる割合が低下

《課題》

ライフステージに応じた栄養バランスを考えた食生活や、ゆっくりよく噛んで食べるなどの食習慣を推進する。

《施策》

- ①「食育ガイド」等を活用した「日本型食生活」の実践の推進
- ②健康寿命の延伸に繋がる食育の推進
- ③歯科保健活動における食育の推進
- ④高齢者に対する食育の推進
- ⑤若い世代に対する食育の推進
- ⑥地域における共食の推進
- ⑦貧困等の状況にある子供に対する食育の推進

主な目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	46.8%	70%以上
生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実施する市民の割合	51.5%	75%以上

食事バランスガイド



4 食育推進運動の展開

《現状》

食育に関心のある割合が上昇

《課題》

幅広い世代に向け積極的に情報提供を行う。

《施策》

- ①「食育月間」や「食育の日」の取組の充実
- ②食育推進に関する情報の提供
- ③各種団体等との連携・協働体制の確立
- ④「**新たな日常**」やデジタル化に対応する食育の推進

目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
食育に関心がある市民の割合	76.8%	90%以上



5 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林水産業の活性化等

《現状》

農林水産業を体験したことのある割合が低下

《課題》

市民農園の普及や、市民を対象とした農林水産業の体験・交流イベントの参加機会の提供や、食品ロスについて啓発を行う。

《施策》

- ①農林漁業者と市民の交流促進
- ②子供を中心とした農林水産業体験活動の促進と消費者への情報提供
- ③地産地消の推進
- ④**環境と調和のとれた持続可能な食料生産とその消費にも配慮した食育の推進**
- ⑤食品ロス削減に向けた市民運動の展開

主な目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
農林水産業の体験をしたことのある市民の割合	27.7%	50%以上



6 食文化の継承のための活動への支援等

《現状》

食文化や伝統料理を継承し伝えている割合が低下

《課題》

郷土料理のレシピなど、インターネットやSNS等を活用した情報発信を行う。

《施策》

- ①食文化の継承に繋がる食育の推進
- ②学校給食等での郷土料理や伝統料理の導入

主な目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	22.4%	30%以上



7 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

《現状》

食品の安全性を判断する割合が低下
(若い世代は上昇)

《課題》

イベントやインターネット、SNS等多様な媒体を活用した啓発を行う。

《施策》

- ①生涯を通じた市民の取組の提示
- ②基礎的な調査・研究等の実施及び情報提供
- ③リスクコミュニケーションの充実
- ④食品表示の理解促進

目標項目	現状値(直近値)	目標値(R9)
食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	75.3%	80%以上

